個々の農産物ブランド情報発信

「豊橋百農人」が発足

生産者を採点、ランク付けも

地域の農産物のブランド価値や競争力を高めようと、品質や販路開拓などに優れた生産者らでつくる「豊橋百農人」（河合浩樹代表）が発足した。消費者向けのウェブサイトを開いて、生産者の紹介や農産物販売などと並行し、関覧した消費者が商品や応対といった満足度をもとに生産者を採点、ランク分けする。生産者個人の向上意欲を促すことで全体の水準の底上げを狙う。サイトは今月中に試行開設、秋に本格稼働させる。（加藤広宣）

豊橋市や田原市など東三河一円から1品目で1人を原則として募り、生産者は「農人（のうじん）」と呼ぶ。すでに、レモン、カキや青ソノ農園を営む生産者3人が発起人として参画している。

参加要件には、ホームページなどで商品を情報発信（または必要性を理解）し、安全安心に配慮した栽培や生産者としての資質向上への関心あることをあげている。

月1回開く定例会では、目標への進ちょく確認のほか、成果をあげる農人の事例に学ぶなど情報交換も行う。初年度は10－15人ほど募り、5年後をめどに100人程度に増やしたい考えだ。

一方、東京などの大都市圏をはじめ、全国の消費者に無料の「サポーターズクラブ」加入を呼び掛ける。

サポーターは、農人が手がける農産品の品質や開発への取組姿勢、質問メールへの応対といったサービス力などを採点。実力を異なるランクに振り分け、年1回の入れ替えによってランクアップやランク維持への動機付けにつなげる。当面は2つのランクに分け、最終的には3ランクに増やす。

消費者と農人をつなぐサイトはIT支援を手がける都デザイン（豊橋市西幸町、清水貴裕社長）が管理運営する。

河合代表は「無農薬グリーンレモン」のブランドで、全国各地の小売店や消費者から注目を集める生産者の1人。

地域発の新たな取り組みについて、「突出した生産者がつどい、高水準な農産物を消費者に発信できる拠点にしたい。消費者のニーズをつかみ、地域農業の底上げやブランド価値を連鎖的に高められたら」と期待する。

参加など問い合わせは、都デザイン内事務局（0532・48・5980）へ。

農業底上げやブランド向上へ「豊橋百農人」を立ち上げた河合代表（右）と都デザイン清水社長＝豊橋市中原町で

東愛知新聞
発行所：豊橋市新栄町鳥畷62番地
〒441－8666 南島私書箱8号
東愛知新聞社
TEL 0532-32-3111㈹
FAX0532-32-3737

豊橋信用金庫（おたくも うちも）

きょうの紙面

歌や劇、楽しくアピール。新城で英語コンベンション ⑩面

豊川市が平和祈念式典 ⑪
太陽光発電設置の補助金好調 ❷
県中学総体で念願の初V ⑩
県内のスカウト新城に集う ⑫

東愛知新聞ホームページ
www.higashiaichi.co.jp